

直方ミニバスケットボールクラブだより

小学生は土台づくりを



2025年4月8日、始業式から1週間が経過しました。教室、クラスメイト、先生、それぞれ新たな出会いがあり、これから新たなつながりが育まれていくことと思います。学校生活をはじめクラブ活動など、さまざまな場面で「土台づくり」をがんばってほしいと思います。「体」（身体）、「心」（精神）、「頭」（思考）、これらは相互に関連し、人として大切な土台を形成します。ここがしっかりつくれていれば、今はバスケットですが、集中して楽しみながら、さまざまな力を身につけていくことができます。また、その後、自己選択・自己決定の力で、新たなことへもチャレンジしていくことができると思います。

年度はじめは毎年ですが、クラブのルールやマナーの理解と実行、活動（練習）への参加姿勢など、まだまだ不安定さを感じさせることが多い時期（段階）です。あいさつ、準備、片付け、対人関係（コミュニケーション）等々。そのため、失敗も起きやすい時期です。大事なことは、そこでのつまづきを引きずって前に進めなくなるのではなく、そこで起きたことも一つの学びとして、前に進む力に変えていくことです。学校、その他でも同様です。クラブでは、6年生を中心に、子どもたちと一つ一つ確認しながら、まずは、「土台づくり」に取り組んでいきます。

学校生活を軸に

新年度を迎え、3年生を中心に新規の子どもたちが加入してきています。3年生は、1か月前までは2年生。地域のスポーツクラブで、異学年の多くのチームメイトといっしょに活動するのは初めての子どもたちがほとんどです。多くのなかまといっしょに活動するにはルールやマナーが必要です。日々の活動のさまざまな場面で子どもたちの動きの中から一つ一つ取り上げ、そのつど学習を重ねています。今は、あいさつやことばづかい、気持ち（感情）のコントロールが多いですね。これまでの生活場面では、あまり経験していない、また意識したことのないルールやマナーを日々学習しています。わかってないために、うまくできてないことがほとんどです。そこからが学習の始まりです。直方クラブでの活動を長く経験している上級生には、「失敗」として注意する段階ではなく、まだわかってなくてうまくできてないんだから、まずは教えてあげたり、前もって声をかけてあげたりするように言っています。

もう一つ、上級生（5・6年生）を中心に、このところ意識的に話しているのは、「自分のこと、あるいは自分でできることは、自分でする」ということです。スケジュール管理、持ち物準備、必要な報告、連絡などです。親がかりの活動ではなく、自分のことは自分でする活動力を身につけていくことをめざしています。一方で、自分ではできないこと、どうしていいかわからないこともあります。そんなときは、早くたずねること、相談することを求めています。すべてのことが自力でできるわけではありません。そんなとき、自分から尋ねることができなければ、立ちつくして活動が前に進まなくなります。だれにも相談できずに自分一人で抱え込んでしまえば、そのうち耐えられなくなり、活動するエネルギーが削がれてしまいます。だから、わからないことは、すぐたずねること。心配なことや困ったことは、早く相談することをすすめています。